第１学年　道徳科指導案

指導者　　戸　羽　正　和

Ⅰ　主題名　ともだちだから
教材名　二わの　ことり（みんなのどうとく１年「学研教育みらい」令和元度版）

Ⅱ　主題設定の理由

１　主題について

○　入学して間もない１年生の子どもたちは，座席や並び順が近い友達と一緒に学習を進めたり活動したりして仲よくすることで，友達と一緒に活動することのよさを少しずつではあるが，実感できるようになってきている。このことが子どもたちの安心感にもつながり，入学前に通っていた同じ保育園や幼稚園の友達との関係のみならず，交友関係も広がりつつある。子どもたちは，互いに声をかけ合ったり、遊んだりすることができるようになってきている。

しかし，子どもたちのグループ活動や遊びの中では，自分の思いを優先するあまりけんかをしてしまう児童もいる。これは，友達の立場を理解したり自分と異なる考えを受け入れたりしようとする意識が十分に育まれていないことが要因と考えられる。

そこで，このような子どもたちの価値意識をさらに高め，友達とよりよい関係を築き充実した生活を送らせるためには，自分本位な考えから脱却し，友達が困っていることに思いを向け，身近にいる友達と一緒に，仲よく活動することのよさや楽しさ，助け合うことの大切さを実感できるようにすることが大切である。この学習を通して，相手の気持ちを考えて行動することが互いの喜びになるということに気付き，友達とより仲よくしていこうとする心情を育てたい。

○　第１学年及び第２学年の指導目標及びの内容や要点は，「１０　友情，信頼」は，「友達と仲よくし，助け合うこと」となっている。

「友情，信頼」とは，相手をもう一人の自分のように幸福になることを相手のために願う人々の間に成り立つ関係の中で，相手の人間そのものを丸ごと受け止め信じる姿である。そのために，相手の身になって考えられるという思いやりがなければならない。当然，相手の心情はもちろん，相手の置かれた状況を知的に理解することも含まれる。「助け合う」とは，良心に恥じない誠実さのもとに，互いに慰め合ったり，相手の向上を願って助言し励まし合ったり相手の足りないところに手を添えてやって補い合うということである。そして，これらは，人間相互の信頼を基盤としたものであり，望ましい人間関係や社会生活を成立させる上で欠かすことのできない「人間尊重の精神」から派生してきたものであるととらえられる。

友達関係は平等な人間関係が基本であり，互いに個性を発揮し，友情を深めていくものでなければならない。そのために大切なことは，次の三点であるととらえる。第一は，相手の存在を認めることである。相手のよさやがんばりを認め合っていくことこそ，友達関係の出発点であるといえる。第二に信頼し合うことである。信頼し合うということは，互いに任せたり任せられたりしながら人を信頼すること，相手の信頼にこたえることである。約束事をしたり，一緒に行動したりすることを通して信頼関係が確立されてくるといえる。第三に，励まし合い，高め合うことである。人はそれぞれによさと克服すべき弱さとをもっている。それゆえに，よさを伸ばし，弱さを克服する努力を行う必要がある。その過程において励まし，ともに高まり合うことによって真の友情が生まれてくると考える。

このように，人間相互が分け隔てなく誰とでも認め合い，信じ合い，励まし高め合うことによって楽しい生活を営むことができるものと考える。低学年では，集団生活で心配や不安を解消させ，学校生活を楽しいものにするため温かい人間関係に満ち溢れた仲間づくりが必要となってくる。したがって，相手の存在を認め，相手の立場に立ってものを考え思いやる優しい心や互いに協力し，励まし合って生活しようとする心情を育てることは大変意義深いことであると考える。よって，本主題のもと，友達の気持ちを考えて思いやりながら，仲よく助け合っていこうとする心の大切さに気付かせていきたいと考えた。

○　本教材は，はじめはうぐいすの家に行ったものの，途中抜け出して，一羽で寂しくしているやまがらの家に向かうみそさざいの気持ちを考えることを通して，ねらいに迫るものである。やまがらは，誕生会なのに寂しい思いをしていたが，お祝いに来てくれたみそさざいに対して，涙を浮かべ喜んでおり，友情のすばらしさを感じ取れる内容となっている。

友情の気持ちを考えて行動することで，より友情を深める心情や態度を育むことに適した教材となっている。

２　復興教育（３つの教育的価値）との関連

○　生命や心について【いきる】「③【価値ある自分】」とのかかわり

どのよう状況においても，自分の存在を認め，必要とされる存在であることを自覚した心を育てたい。

○　人や地域について【かかわる】「⑨【仲間とのつながり】」とのかかわり

協力することの大切さや互いに支え合う仲間の大切さを実感させたい。

Ⅲ　指導の構想（関連と発展）

「友達と仲よくし，助け合っていこうとする心」を育てる学級における指導の構想図

教　師　の　願　い

友達の気持ちを考えて生活することの大切さやすばらしさを感じ取る子どもに育ってほしい。

＜担任の基本姿勢＞

① 子ども同士，教師と子どもという関係をよりよいものにするために，ふれあう機会を設け，互いのことのよさを認め合い，励まし合っていこうとする学級風土をつくる。

② 学校生活の中で，友達の身になって考えて仲よくし，助け合っていこうとした行為を認め，価値付けていく。

＜目指す子ども像＞

・ 友達の気持ちを考えて仲よくし，励まし合い支え合いながら助け合っていこうとする子ども

環境づくり

・ 助け合おうとし，実行している場面を教師が具体的に取り上げ，紹介する。
・ 朝や帰りの会で仲よく助け合っている友達のよさを認め合う場を設定する。
・ 一日の学校生活で助け合った子ども達の名前と行動内容を写真等で掲示し，学級に広げていく。

家庭との連携

・ 学年報や連絡帳などを活用しながら，友達と仲よく助け合っていこうとする子どもの姿を伝えていく。

地域との連携

・ 子ども会や地域の行事などの活動を通してよりよい人間関係が育成されることができるように連携を図る。

月	学級活動・体験的活動	道徳科の時間	各教科の学習	日常指導・その他
	（学）学級活動 （行）学校・児童会行事 （体）体験的な活動	友情・信頼に関する主題を重点的に行う。	左記の道徳科の時間にかかわりのある学習と関連を図る。	子どもの実態に即し，継続的な指導を図る。
4月	○「児童集会」（行） 上学年と「仁王の子」の歌い方を教えてもらいながら優しさに触れ一緒に明るく楽しい学校生活を送ろうとする意欲を育てる。			○ 悲しんだり苦しんだりしている友達を見かけたら，声をかけたり励ましたりしようとする子どもを教師が紹介する。
5月	○「こいのぼり集会」（体） １・２年生で親しんだり一緒にゲームをしたりすることにより安心感を抱きながら，楽しく学校生活を過ごしていこうとする意欲を育てる。 ○「縦割り掃除」（体）通年 互いの役割を理解し，助け合いながら，学校をきれいにしようとする態度を養う。			○ 体験活動や縦割り掃除などで，互いに助け合っている行為を発表させ，みんなで認め合えるようにさせる。
6月		◆「二わの　ことり」（６月） 友情・信頼 友達の気持ちを考えて思いやりながら，仲よく助け合っていこうとする心情を育てる。		
7月	○「七夕集会」（体） １・２年生で親しんだり一緒にゲームをしたりすることにより安心感を抱きながら，楽しく学校生活を過ごしていこうとする意欲を育てる。			
8月			○算数「どちらがながい」８月 友達と一緒に助け合いながら具体物の長さを比べ課題を解決しようとする態度を養う。	
9月	○「お月見集会」（体） １・２年生で親しんだり一緒にゲームをしたりすることにより安心感を抱きながら，楽しく学校生活を過ごしていこうとする意欲を育てる。	◆「くりのみ」　（９月） 友情・信頼 友達と仲よくし，困っているときに互いに助け合おうとする態度を育てる。	○体育　「はしってとびこそう」９月 友達と仲よく協力し合って準備や後片付けをしたり，走り方を教え合ったりしようとする態度を養う。 ○音楽「がっきあそび，おとあそび」９月 互いに奏でる音色の表現の仕方を認め合いながら活動しようとする態度を養う。	○ みんなで助け合って取り組むことのすばらしさを伝え，深めさせるようにする。
10月	○「大運動会」（行） 団体競技・演技の練習で，友達のよさを認め合ったり，さらに高められることを助言し合ったりしながら活動する。			
11月	○「全校音楽集会」（行） 互いの努力を認め合ったり，友達のよさを見つけたりしながら，学年の所属感や一体感を養う。		○算数「どちらがひろい」１１月 友達と一緒に具体物の面積の広さの比べ方を紹介し合い，教え合いながら課題を解決しようとする態度を養う。	
12月			○体育「ねらってシュート」11月 チームのよさを生かした作戦を交流しながら，勝利に向かって協力しようとする態度を養う。	○ 家庭との連携を密にしたり，他の職員と情報交換を密にしたりするなどし，児童一人一人の実態把握に努める。
2月			○音楽　「やまびこごっこ」１月 「問いと答え」の曲想やその変化を感じ取りながら友達の歌い方のよさを認め合う態度を養う。 ○音楽「こいぬのマーチ」２月 旋律や音が重なり合う響きを感じ取りながら，互いに聴き合い気持ちを合わせて表現しようとする態度を養う。	

Ⅳ　指導計画

1　内容項目１０「友情，信頼」で育む資質・能力

知識及び技能	思考力，判断力，表現力等	学びに向かう力・人間性等
友達が困っていたり悲しい思いをしたりしていることに思いを向け，助け合うことが大切であることの理解を深める。	友達の気持ちを考えた上での行動についてどのように行動するとよいか具体的に考え表現し，判断する。	友達のことを考えて良好な関係を築くことができた自分を振り返ったり，より良好な関係を築くための心の有様を考えたりしながら自分の生活を生かそうとする。

※　道徳科においての資質・能力のとらえは，子ども達の評価基準として扱うものではなく，指導者自身が目指す子どもの姿につなげるためのものである。また，その子どもの道徳性の評価とするものではない。

2　学びのつながり

○　入学前の幼稚園や保育園の生活では，自分のわがままな思いを友達にぶつけ，言い合いや喧嘩をしたり意地悪な行動をしたりするなど，相手の気持ちを考えず自己中心的な行動が目立っていた。これは，自分の都合や立場を優先するあまりに起こった行動と言える。

○　本主題では，自分中心的な考えから脱却し，相手の立場や気持ちを考えることが真の友情につながることを捉えさせることが大切である。そのためには，相手に親しみをもちながら，相手の身になって考える思いやりがなければならない。寂しい思いをする友達の気持ちを自分の経験を基に自分事のように置き換えて考えたり，困っている友達に対してどのように行動するかを話し合ったりしながら，道徳的諸価値の理解につなげる。また，

○　今後は，本主題で捉えた「友達と仲よくし，助け合うこと」に関する道徳性の諸様相「道徳的心情」に加え，２学期で指導する教材「くりのみ」の学習において「道徳的実践意欲と態度」を育んでいく。この道徳性は，前述の「指導の構想（関連と発展）」で示した通り教育活動全体を通して，道徳的実践力の育成へとつながる。また，６年間で第３学年及び第４学年「友達と互いに理解し，信頼し，助け合うこと」第５学年及び第６学年「友達と互いに信頼し，学び合って友情を深め，異性について理解しながら，人間関係を築いていくこと」に発展する。このように，家族以外で特に深いかかわりをもつ存在となる友達関係は，共に学んだり遊んだりすることを通して，互いに影響し合い考え方などを交え，豊かに生きる上で大切な存在として磨き合い高め合う人間関係となり，切磋琢磨しながら自己の成長につながるものと捉える。

Ⅴ　本時の指導構想

1　本時の指導

「導入」の段階では，遊びに入れてもらえずに困っている様子の場面を提示し，困っている友達の心情を想像させながら，友達にいじわるをされたときの気持ちについて話し合っていく。子どもたちには，自由に語らせながらもどんなことで困っているか捉えさせ，本時のねらいへの方向付けを促す。

「問題の分析・追求」の段階では，誰もがもっている「つい目の前の楽しさや，周りの友達の行動に流されてしまいがちな心の弱さ」に気付かせたり，「みんなを待っているかもしれないやまがらの気持ちや寂しさ」を自分のことのように捉えようしたりすることを通しながら，主人公の心の葛藤に共感させたい。その際，「もし自分が『みそさざい』だったらどうしますか。」と問い，より自分事として話し合わせる。

また，うぐいすの家をそっと抜け出しやまがらの家に飛んで行ったみそさざいの行為について話し合う時は，「みそさざいは，どんな気持ちで飛んで行ったのでしょう。」と問い，やまがらの一人寂しい立場を想像し，いたたまれなくなるほどの友達への優しさが「急いで飛んで行った行為」となって表れ，その行動に移した理由を切り返し問いながら深く掘り下げていくことで，友達の気持ちを考えて思いやることの大切さに気付かせたい。同時に，義務感や同情の感情も引き合いに出すことで，様々な感情や状況が考えられることも捉えさせたい。

「価値の感得・理解」の段階では，中心発問の「涙をうかべて喜ぶやまがらを見て，みそさざいは，どんなことを思ったでしょう。」を問い，友達のことを思いやる行為に移した心地よさを捉えさせたい。話し合った後で，ペープサートを用いながら，「相手を思いやる行為が相手を喜ばせ，相手の喜びが自分の幸せにもつながることの役割表現」を通して，相手を思って判断したことがよい結果につながったことを感じ取らせる。役割表現では，友達に対する思いやりがほしい子どもに「みそさざい役」を，一人遊びの多い子どもに「やまがら役」を意図的に指名し，活動させたい。

「価値の主体化」の段階では，自分の生活経験や生活体験と比較する活動を取り入れ，自分の生活を想起し，友達のことを考えて仲よくしたり助け合ったりしたことを発表させ，ねらいに迫りながら個々の自己肯定感も育んでいきたい。

2　展開の大要

（1）　ねらい

○　友達の気持ちを考えて思いやりながら，仲よく助け合っていこうとする心情を育てる。

（2）　展　開

段階	時間	学習活動と主な発問	予想される児童の発言や心の動き	研究にかかわる手立て	指導上の留意点 【見取りの視点】
問題の把握	5	1　友達にいじわるをされたときの気持ちについて話し合う。 ○　仲間に入れてもらえない子どもはどんな気持ちでいるでしょうか。	・　自分も入れてほしいなあ。 ・　とても悲しいしなあ。さびしいなあ。 ・　嫌われているのかな。 ・　他の友達に入れてもらおうかな。		◆　遊びに入れてもらえずに困っている様子の場面を提示し，困っている友達の心情を想像させる。 ◆　友達との関係で困っている様子を捉え，本時のねらいへの方向付けを図る。 ◆　みそさざいとやまがら，みそさざいとうぐいすの友達関係について挿絵を用いながら整理する。 ◆　明るさや楽しさを好んだみそさざいが，やまがらの家に飛んでいくことに至った行為の判断や気持ちの変化を中心に話し合う。
		ともだちとなかよしでいるためには，どうしたらよいのだろう。			
	7	2　教材を読んで感想を発表し，話合いの方向をつかむ。 ○　このお話を聞いて，どう思いましたか。	・　やまがらがかわいそう。 ・　みそさざいはとてもやさしい。 ・　やまがらはとてもうれしかったと思う。		
問題の分析・追求	12	3　迷いながらもうぐいすの家に飛んでいったみそさざいの気持ちについて話し合う。 ○　迷っていたみそさざいがうぐいすの家に飛んでいったのは，どうしてでしょう。	・　小鳥たちみんなが行ってしまい，自分も（みそさざい）も行きたいと思ったから。 ・　山奥の寂しいところより，近くで明るくて楽しくところ方がいいと思ったから。	【手立て１】 多様な見方・考え方を働かせながら自分の考えをもち，他者と考えの交流を通して，道徳的判断力を養う話合い活動の在り方 ・　「もし自分が『みそさざい』だったらどうしますか。」と問い，より自分事として捉えさせる話合い活動にする。	◆　目の前の楽しさにひかれてしまいがちな気持ちや，みんなにつられてついて行ってしまった心の弱さに気付かせ，主人公の心の葛藤に共感させたい。 ◆　みんなを待っているかもしれないやまがらの気持ちに触れたり，やまがらの寂しさを自分のことのように捉えたりすることを通して，やまがらの立場や気持ちを理解しようとしていることに気付かせる。
		○　うぐいすの家に行ってからのみそさざいは，どんな気持ちでいたでしょうか。	・　やまがらのことが気になるし，楽しめないなあ。 ・　やまがらは，誰かが来てくれるのを待っているだろうな。		
	13	4　うぐいすの家をそっと抜け出しやまがらの家に飛んで行ったみそさざいの行為について話し合う。 ○　うぐいすの家をそっと抜け出して，みそさざいは，どんな気持ちで飛んで行ったのでしょう。	・　約束だから早く行かなきゃ。 ・　誕生日に一人ぼっちなんてかわいそう。 ・　大切な誕生日をお祝いしてあげよう。 ・　やまがらを喜ばせてあげたい	・　子どもの発言につなげながら，飛んで行った理由を掘り下げていく。 ・　自分の考えをもち，友達の考えも分かりながら話し合う。	◆　義務感や同情なども引き合いに出し，やまがらの寂しさを自分のことのように感じ，やまがらを喜ばせたいという思いに至った考えを交流する。 ◆　みそさざいがやまがらを思い，いたたまれなくなるほどの友達への優しさに共感させたい。
価値の感得・理解		5　涙を浮かべて喜ぶやまがらを見た時のみそさざいの気持ちについて話し合う。 ◎　涙をうかべて喜ぶやまがらを見て，みそさざいは，どんなことを思ったでしょう。	・　喜んでくれてうれしい気持ちになった。 ・　やっぱり来てよかった。 ・　一人ぼっちで寂しかったね。ごめんね。 ・　これからもなかよしでいようね。	・　相手を思いやる行為が相手を喜ばせ，相手の喜びが自分の幸せにもつながることの役割表現を通して，相手を思って判断したことがよい結果につながったことを感じ取らせたい。	◆　涙を浮かべて喜ぶやまがらの姿に目を向けさせ，友達を思いやる心の大切さに気付かせる。 ◆　ペープサートを用いて，みそさざいの役を演じることで，友達のことを思いやる行為に移した心地よさを捉えさせたい。 【見取りの視点】発言内容 友達の気持ちを考えて思いやることが大切であることを理解しようとしているか。
		○　もっと友達と仲よくなるために，どんなことが大切だと考えますか。	・　友達の気持ちを考えることが大切だと思います。 ・　友達がどんなことで困っているのか考えてやさしくすればいいと思います。	・　友達と仲よくなるために，どんな心が大切かを自分なりに考える。	
価値の主体化	8	6　友達と仲よくしたり助けられたりした経験を話し合う。 ○　友達のことを考えて仲よくしたり助けたりしたことに，どんなことがありますか。	・　寂しそうにしている友達を誘って遊んだことがある。 ・　泣いている友達にやさしく声をかけてどうしたのと聞いてなぐさめてあげた。	【手立て２】 道徳的諸価値の理解を生かして，自分の価値意識を深める振り返り活動 ・　自分の生活経験や生活体験と比較する。 ・　道徳的諸価値の理解をもとに今までの自分の価値意識を振り返る。	◆　自分の生活を想起させ，友達のことを考えて助け合ったことを発表させる。 【見取りの視点】発言内容 仲よく助け合うことの大切さを考えているか。
		7　教師の説話を聞く。			◆　教師が友達に助けられた出来事を話し，仲良くすることや助け合うことの大切さを実感させたい。

（3）　【見取りの視点】　これまでの自分を振り返り，友達の気持ちを考えて思いやりながら，仲よく助け合うことの大切さを考えている。